

すい

地域推しんばん



令和7年1月発行

発行・編集／社会福祉法人広島市社会福祉協議会 地域福祉推進課 地域福祉係

〒732-0822 広島市南区松原町5番1号 (BIG FRONT ひろしま6階 広島市総合福祉センター内)

TEL：082-264-6403 FAX：082-264-6413 E-mail：chiiki@shakyohiroshima-city.or.jp



“分かった”から“やってみよう”へ
～ 4つの講座・研修会報告 ～



本会では毎年、同時期に地域福祉の推進及び各事業の
広報のため講座・研修会を開催しています。対象の方で
興味のある内容がありましたらぜひご参加ください。

10/22 広島市域新任地区社協会長・地域福祉推進委員研修会

参加対象: 新任の地区社協会長及び地域福祉推進委員(就任後おおむね5年以内。就任5年以内であれば複数回参加可能)

この研修会は、新任の地区社協会長や地域福祉推進委員の方々が、地区社協活動をより円滑に推進するために必要な基本知識や役割等について理解し、他地区の会長・地域福祉推進委員と交流することで、今後の地域活動に役立てていただくことを目指して開催しています。

【実践報告①】 佐伯区 八幡学区社会福祉協議会 会長 増田 昭美氏

都市化が進んだ地元地区と、新興住宅地で町内会加入率が大きく違う中で、「敬老会」や「とんど」、「節分まつり」などの行事や、毎月の広報紙の発行に取り組まれています。会長として、完璧は求めず、全責任は自分がもつことを表明しつつも、事務局長等の“ご意見番”を充実させることで独裁運営にならないように注意していること、他地区同様、後任不在は心配ですが、子どもたちが参加できる行事(中学生をハンターとした「逃走中」など)を中心に考えていくことで、子どもたちが喜ぶ姿を見せていければ、次世代や今後、何かしら地域に返ってくると思って行事を考えていると説明されました。



▲「元気なうちは楽しみながら取り組みたい」と話す増田会長

【実践報告②】 安佐北区 可部地区社会福祉協議会 地域福祉推進委員 新居田 憲男氏

「地域福祉推進委員になった当初はどうしてよいのか分からず、他の学区の地域福祉推進委員さんのように活躍できそうにないので辛かった。各会議に参加するように言われたが案内・連絡もなく戸惑った」と当時の心境を語られ、まずは地元でできることをやろうと思い、自分の町内会でサロンや助け合い会を立ち上げられました。また、区社協主催の会議へ積極的に参加し情報収集することで、地域全体やボランティアバンクの利用者へも有効な情報があれば提供することができるようになったと説明されました。特に町内会で見守りのため毎月1軒ずつに配付している「ゴミカレンダー」の実物を見たい、参考にしたいとの声に参加者から多く出ました。



▲「自分らしく自分の立場で取り組みたい」と話す新居田推進委員

【小グループ座談会】

16グループに分かれて、「心がけていること」「今後してみたい、やってみたいこと」、「他の参加者に聞いてみたいこと」というテーマを共有しました。

他区同士の会長や地域福祉推進委員のグループでしたが、テーマや日ごろの活動に対する想いや悩みについて意見交換が始まると、時間が足りないくらい盛り上がり、「他区の方も同じ想いや悩みを抱えながら活動されていて、自分だけじゃないと共感できた」、「日ごろのモヤモヤが少し解消できた」と言った感想をいただきました。



12/5 地区社協活動拠点活性化支援事業研修会 ～「それ、ええね！」発見・共有会～

参加対象：地(学)区社会福祉協議会関係者、行政・地域包括支援センター職員

本会では令和2年度から、地区社協活動拠点への拠点スタッフの配置を支援する地区社協活動拠点活性化支援事業を開始し、市内140地区社協のうち、現在89の地区社協で取り組まれています。今回は初めて、行政や地域包括支援センター職員にも参加いただき、講師と社協職員とのトークセッションを行うなど、地域ごとの拠点運営の工夫や思いなどを「それ、ええね！」という視点で共有し、今後の拠点活動への反映や、拠点の開設に向けてできることを見つけられるような内容としました。

【講演】『包括的支援体制の整備と地区社協活動拠点』

講師：中井 俊雄先生(ノートルダム清心女子大学准教授)

様々なデータをもとに、「現在20代で地域と付き合いのある人たちは30%で、このままでは将来70代になっても30%のまま。そのような社会の中で次の世代、次の地区社協をどのように作っていくかを考えないといけない」という問題提起や、地域共生社会の大きなテーマである『支え手』『受け手』という関係を超えて」ということについて、「皆さんは支え手側だが、支えられる側になってほしいと思う。他人に「支えてください」と言うことは結構大変なことで勇気がいる。皆さんはそれを地域住民に強制してしまっていることが多々あるのではないですか？困っている時に困っていると普通の人とは言えない。じゃあどうすれば良いかという、「手伝ってくれない？」とこちらが直接頼むと、頼まれた側も「いつもお世話になっているから」と引き受けやすくなりますよね」と分かりやすい言葉や事例を用いて説明されました。



▲元社協職員の中井准教授

【トークセッション】『広島市域の地区社協活動拠点について』

中井先生 × 石田地域福祉推進課長

15分と短い時間でしたが、具体的な実践例を紹介しながら、拠点は場所だけではないこと、困った時に拠点に行けば知っている人がいるという関係性・安心感が重要という市社協職員の想いを参加者と共有しました。講師からも「キャッチしたニーズを何とか具体的な活動に反映しようという熱い想いを今後も地域の中で広げてほしい」との話がありました。

▶ トークセッションの様子



会場参加者限定！

【グループワーク】『あなたの地域の人やモノ・活動を自慢してください！』

各自が A4 の紙に自慢できる人やモノ・活動を書き出し、お互いに見せ合いながらグループで共有したり、講師が深掘りしました。「捨てられない、捨てにくい名刺を作った」と実物を紹介される参加者もおられ、「問題点など挙げていく会合も多い中、今日は地区の自慢などとても前向きで明るい気持ちになれる内容のお話が聞けて良かった」という感想をいただきました。



▶ ▲ グループワークの様子



8/4 地区社協役員等実践講座 『地域で一緒にできることを考える～社会福祉法人の取り組みを通じて～』

参加対象:興味・関心があればどなたでも

講師に中井俊雄先生(ノートルダム清心女子大学准教授)を迎え、基調講演「地域でのつながりづくりとは」や、2つの事例報告(①社会福祉法人が運営する保育所と地域住民が芋の苗植え・芋ほりを通じて、保育所卒園後も登下校の見守りにつながっている事例、②同じ地域にある障害分野と高齢分野の別々の法人が協力し居場所づくりを行っている事例)を通じて、地域共生社会のキーワードである「制度・分野ごとの縦割りや支え手・受け手という関係性を超えて」という考え方についての理解を深めました。

ゲストスピーカー
香川 和子氏

(社福)みのり会
可部保育所 副園長
宅重 真智子氏

(社福)藤田長生会
生活相談員
松村 彰臣氏

(社福)交響
生活支援員
山根 理紗子氏

12/10 ガイドヘルパー研修会(車いす等)

参加対象:広島市障害者(児)ガイドヘルパー派遣事業においてヘルパー登録をしている方や活動に関心のある方



トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校の吉岡俊昭先生を講師に、「介助を学ぼう～大切なのは少しの知識と“思いやり”～」というテーマで、実技では最新の知識に加え、丁寧な動作やさりげない配慮を行うことこそ「人に人が関わることである」ということを、講義では講師が過去に出会った人たちとのエピソードから、ガイドヘルパー制度の役割である「その人らしさ」「生きがい」「生活の質の向上」とは何か、知識よりも思いやりをもって接することが何よりも重要であるということを再認識しました。

